

大日本スクリーン製造株式会社

2012年3月期 第2四半期 決算説明会

2011年11月8日

取締役社長 COO 橋本 正博

本日のアジェンダ

- ・2012年3月期 第2四半期連結業績 結果と分析
- ・事業環境
- ・2012年3月期 通期連結業績予想
- ・中期3カ年経営計画について

資料取り扱い上の注意

- ・本資料および口頭にて提供する将来の当社業績見通しは、直近で知り得る情報をもとに作成したものであります。しかしながら、世界経済やエレクトロニクス業界の技術変化、半導体・フラットパネルの市況など、当社を取り巻く事業環境は急速に変化いたします。つきましては、今後当社の業績見通しが本資料と異なる可能性もございますので、ご了解願います。
- ・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は百万円単位で計算した結果を四捨五入して処理しております。

2Q 連結業績結果

2012年3月期 2Q 連結業績結果

(単位：億円)	2011年3月期					2012年3月期				
	実績					実績			8/9予想	差額
	1Q	2Q	累計	3Q	4Q	1Q	2Q	累計	累計	累計
売上高	514	589	1,104	662	783	645	584	1,230	1,320	▲ 90
SE	327	365	692	495	554	482	361	844	935	▲ 90
FE	82	92	174	61	90	51	93	144	137	7
MP	103	130	233	103	135	110	128	238	245	▲ 6
印刷関連機器 (MT)	89	106	196	92	116	95	114	209	214	▲ 4
プリント配線板関連機器 (PE)	13	23	37	11	19	14	14	28	31	▲ 3
その他(外部売上のみ)	1	1	3	1	1	1	1	3	3	0
営業利益	46	63	110	75	81	62	27	90	105	▲ 15
SE	49	61	110	88	81	68	24	93	-	-
FE	6	0	6	▲ 5	▲ 0	▲ 7	▲ 3	▲ 10	-	-
MP	▲ 9	1	▲ 7	▲ 8	2	2	8	10	-	-
その他および調整額	▲ 0	0	0	1	▲ 2	▲ 1	▲ 1	▲ 3	-	-
経常利益	46	63	109	74	80	60	27	88	100	▲ 11
純利益	38	57	95	77	83	47	18	65	90	▲ 24

SEは半導体機器事業、FEはFPD機器事業、MPはメディアアンドプレジジョンテクノロジー事業を示す。

2012年3月期 2Q 連結業績分析

売上高

1Q実績645億円 ・ 2Q実績 584億円 (前四半期比：60億円減少)

(単位：億円)

セグメント	1Q 実績	2Q実績	差額	差異のポイント
SE	482	361	▲ 120	ファンドリーの投資急減速。洗浄装置、コタデベロッパ-ともに減少
FE	51	93	42	中国向けG8が増加。コタデベロッパ-、ウエット処理装置ともに増加
MP	110	128	17	
MT	95	114	18	CTP、PODともに増加
PE	14	14	▲ 0	韓国、台湾向けは増加したが、国内投資が減少

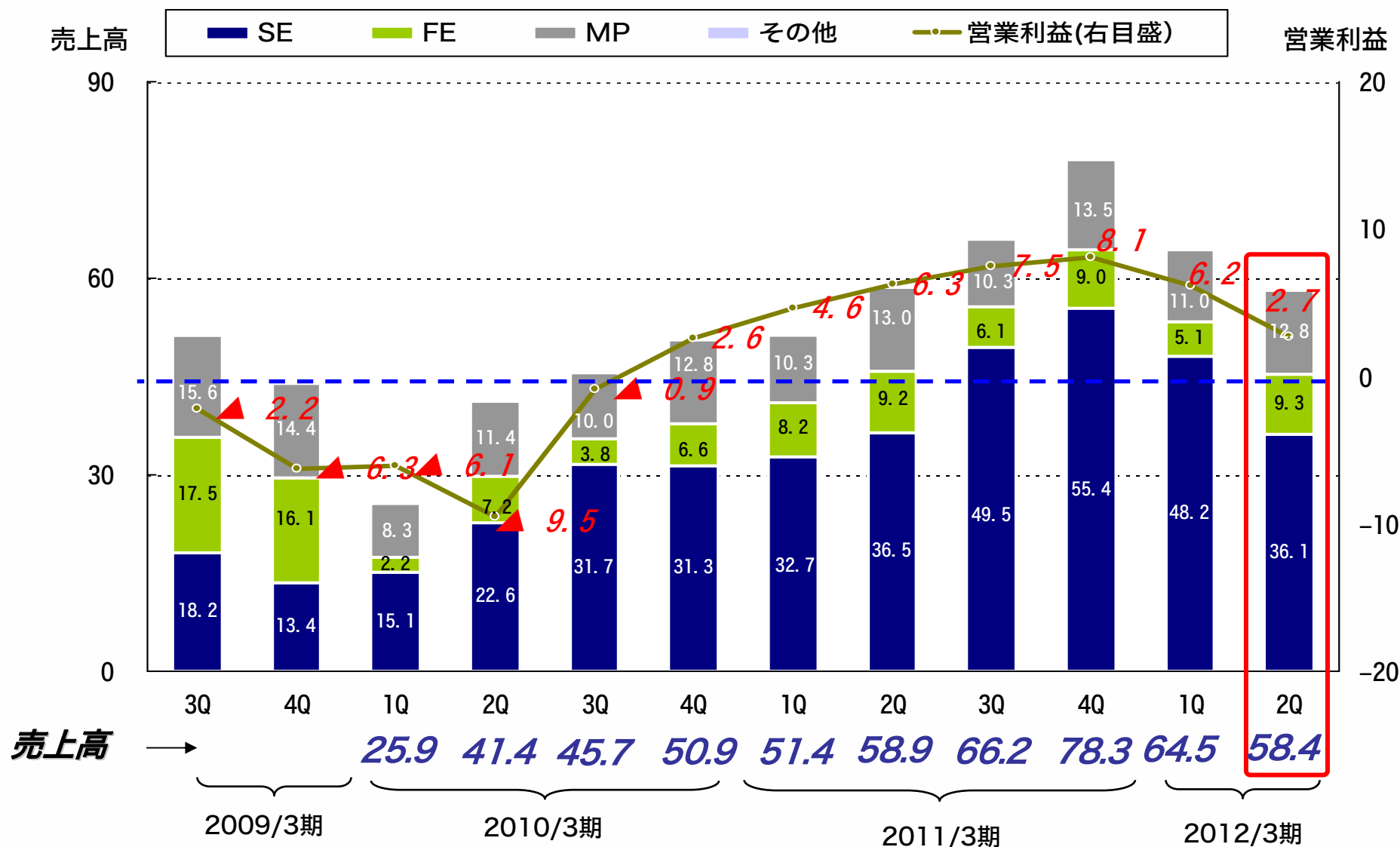
営業利益

1Q実績62 億円 ・ 2Q実績 27億円 (前四半期比：34億円減少)

(単位：億円)

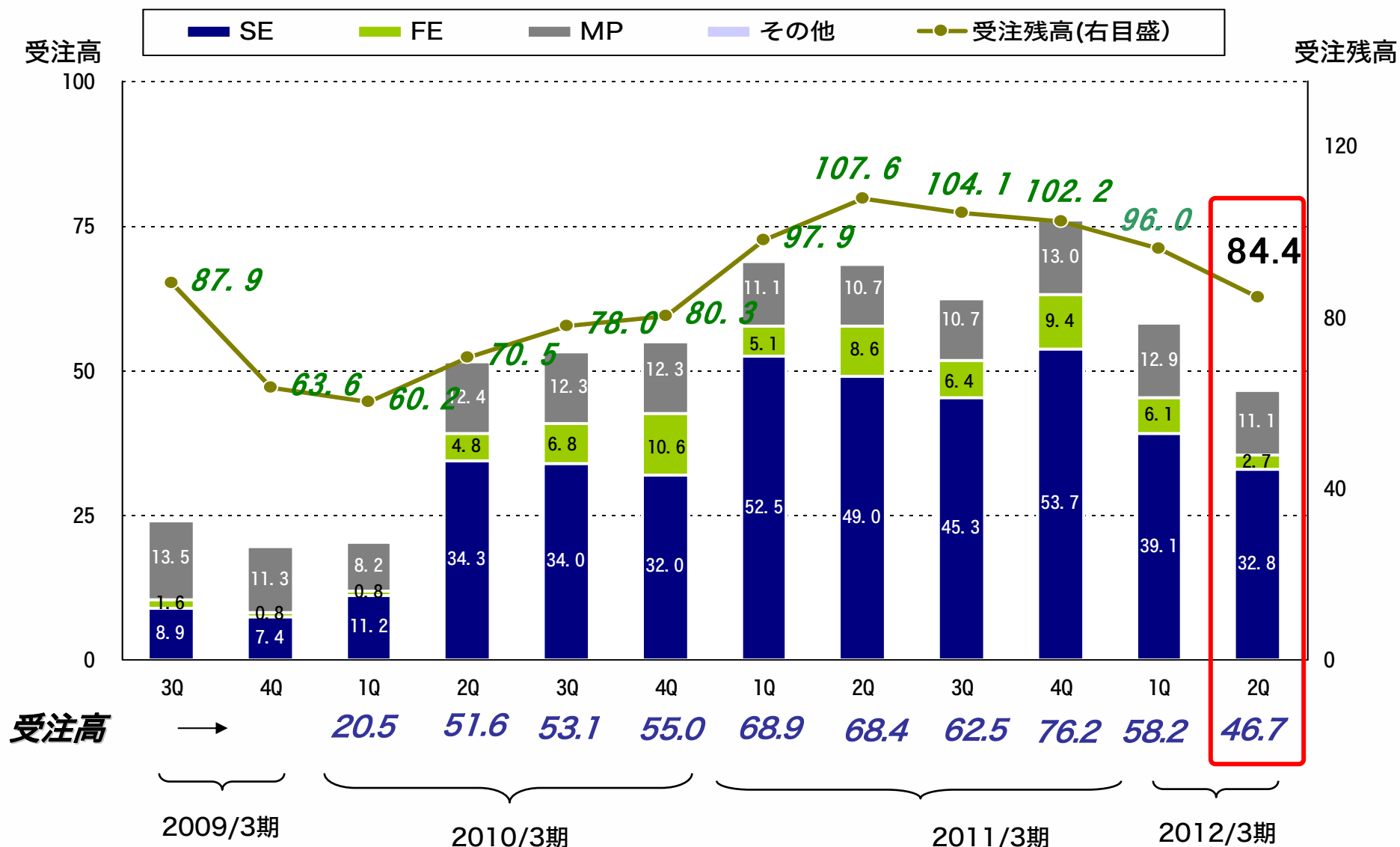
セグメント	1Q 実績	2Q実績	差額	差異のポイント
SE	68	24	▲ 44	売上減少に伴い減益
FE	▲ 7	▲ 3	3	売上は増加したが、収益性が低い案件
MP	2	8	6	売上増加およびプロダクトミックスの好転

売上高・営業利益 四半期推移 (連結)



(単位：十億円)

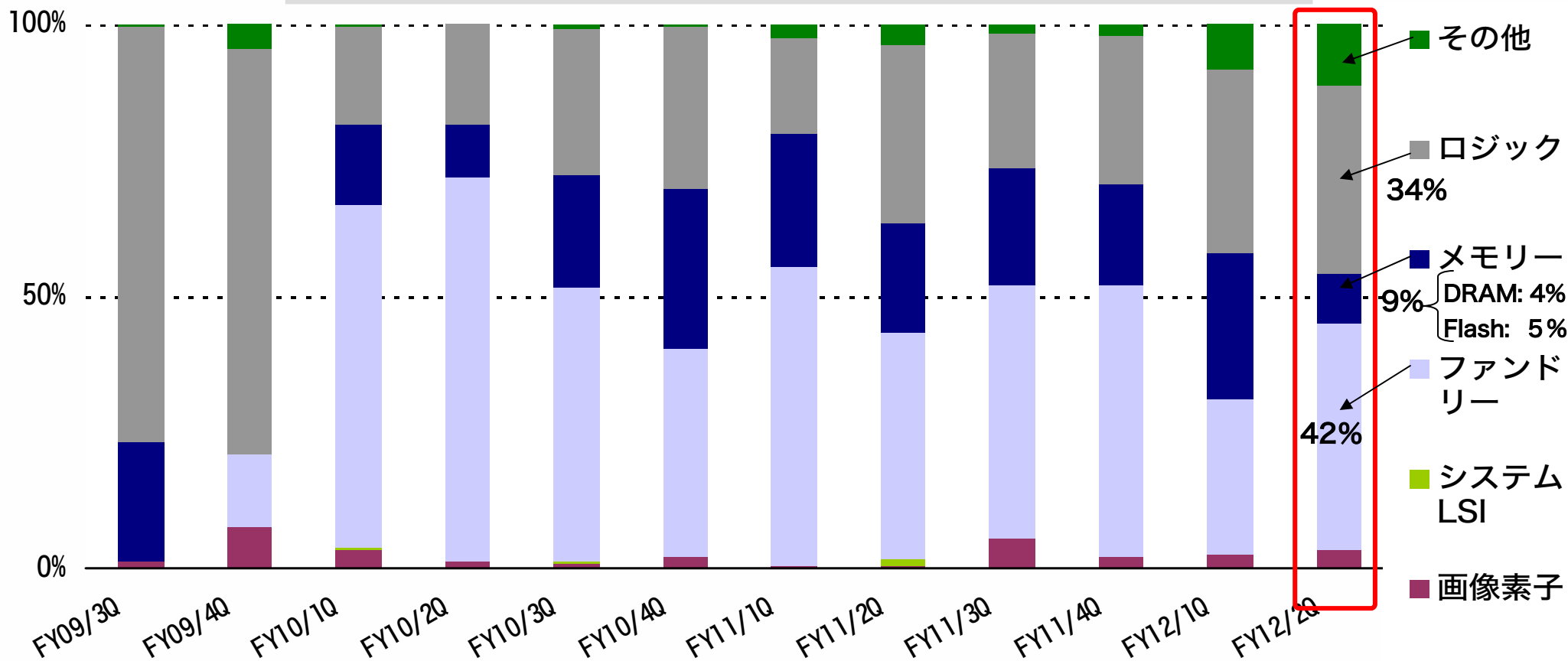
受注高・受注残高 四半期推移 (連結)



(単位：十億円)

<SEセグメント> デバイス分類別受注比率 四半期推移 (単独)

➤2Q受注高 : 328 億円 (連結)



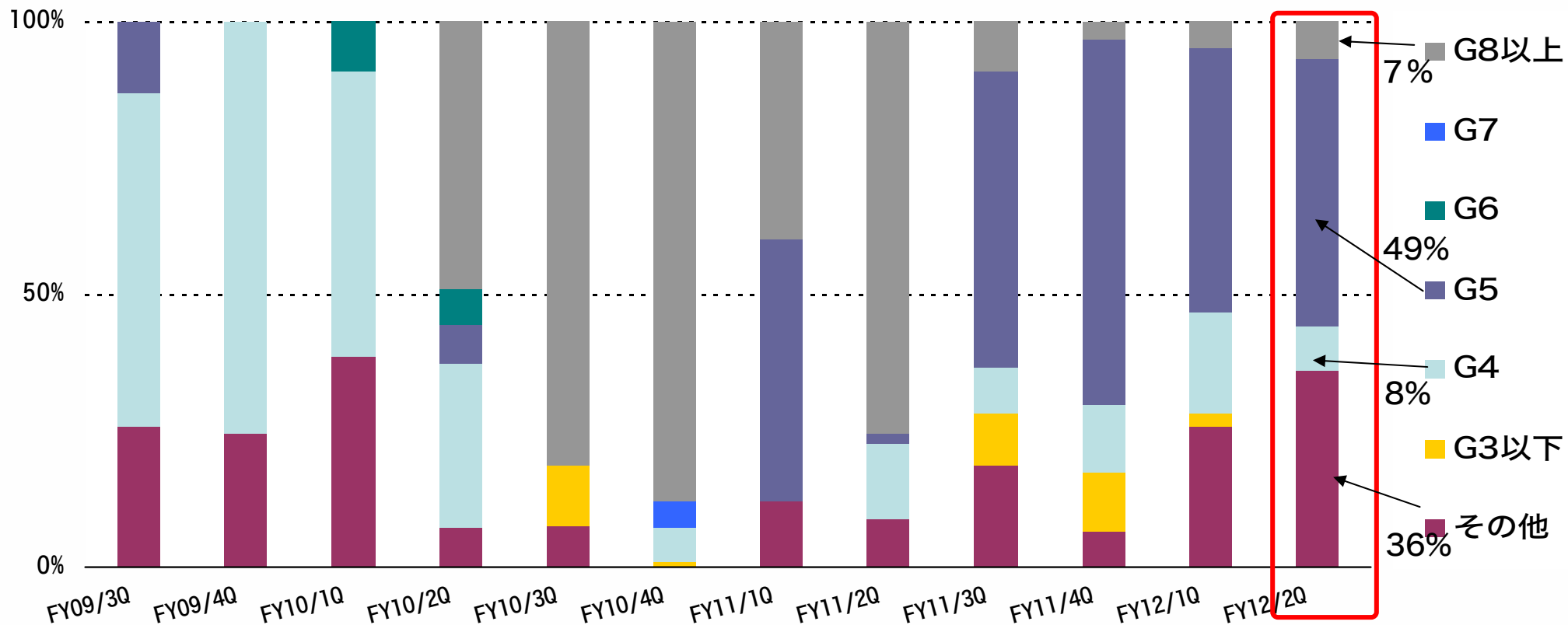
*FY12/2Qよりパーツをその他に含めている。

地域別受注高 (単独)
2012年3月期
2Q 実績

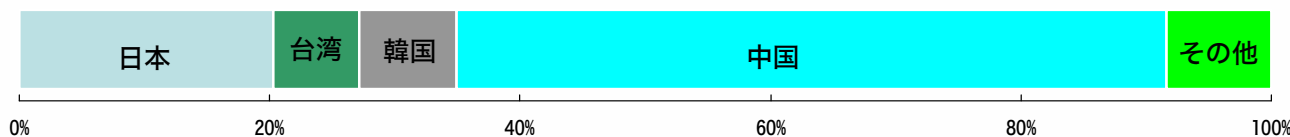


<FEセグメント> 世代別受注比率 四半期推移 (単独)

➤ 2Q受注高 : 27 億円 (連結)



地域別受注高 (単独)
2012年3月期
2Q 実績

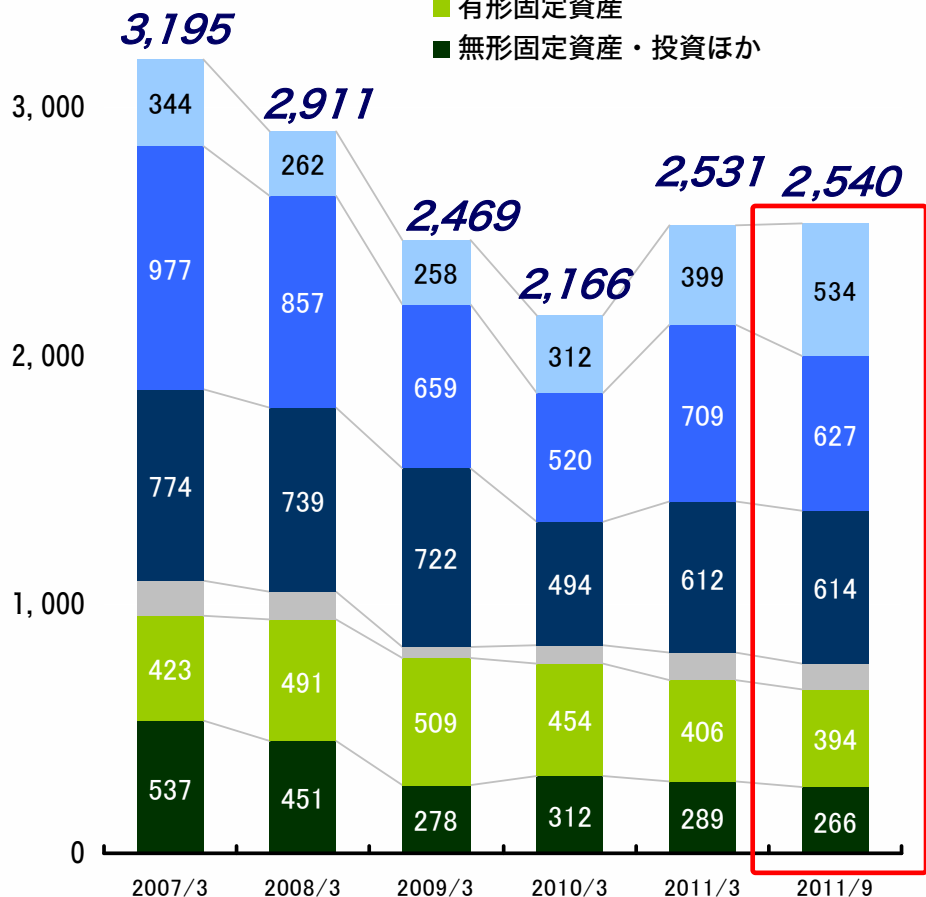


貸借対照表 (連結)

資産

(億円)

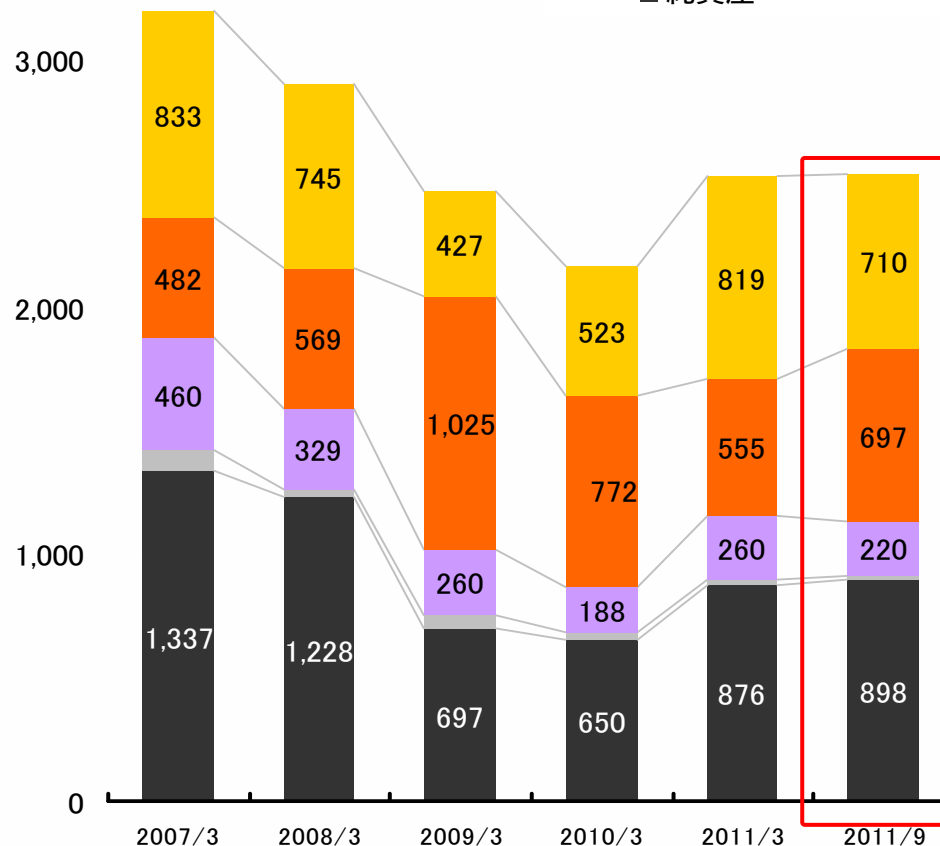
- 現金・預金
- 受取手形・売掛金
- 棚卸資産
- その他の流動資産
- 有形固定資産
- 無形固定資産・投資ほか



負債および純資産

(億円)

- 支払手形・買掛金
- 有利子負債
- その他流動負債
- その他固定負債
- 純資産



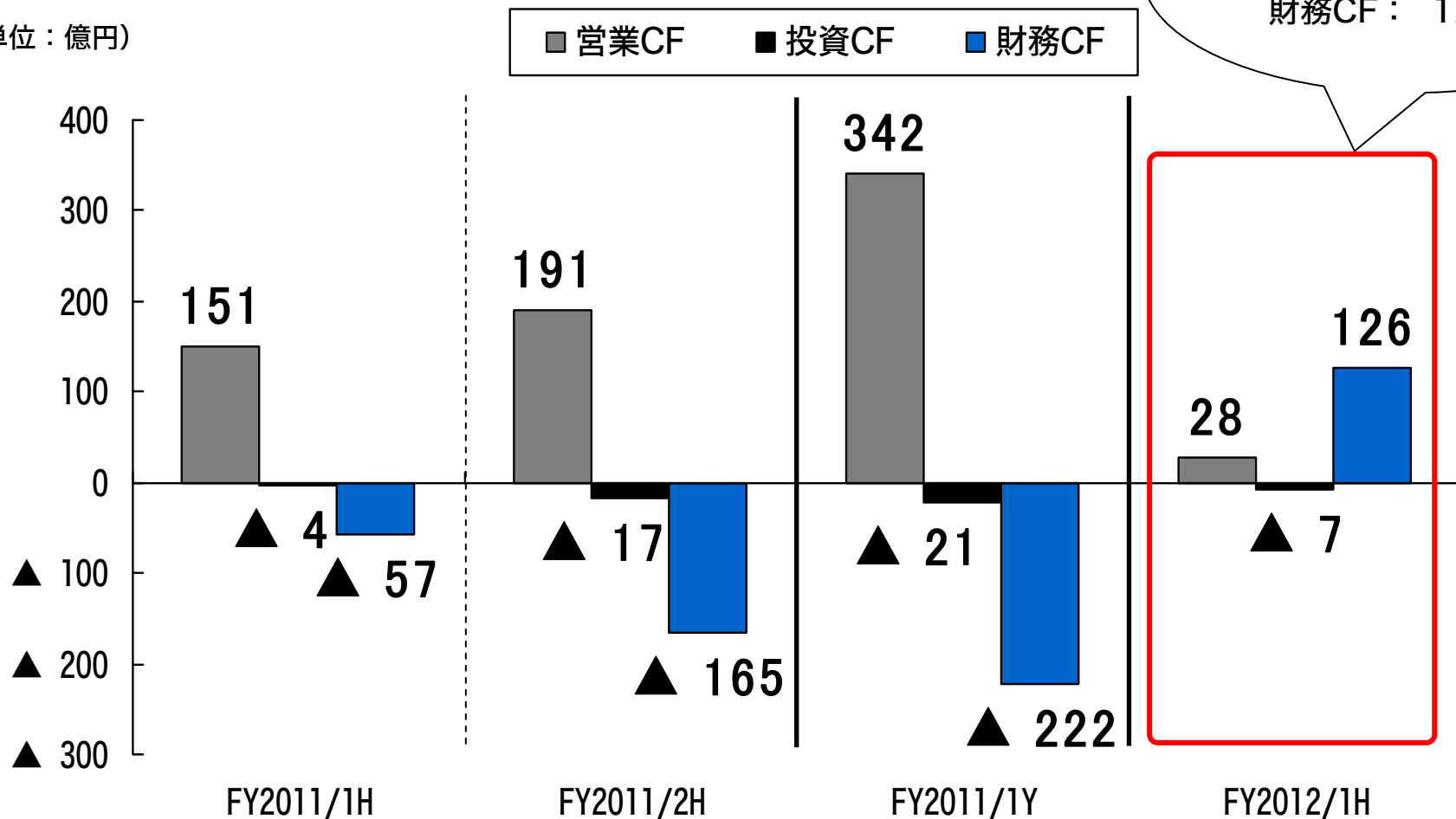
自己資本比率 34.4% (2011/3) → 35.2% (2011/9)

キャッシュ・フロー (連結)

フリーキャッシュ・フロー：20 億円

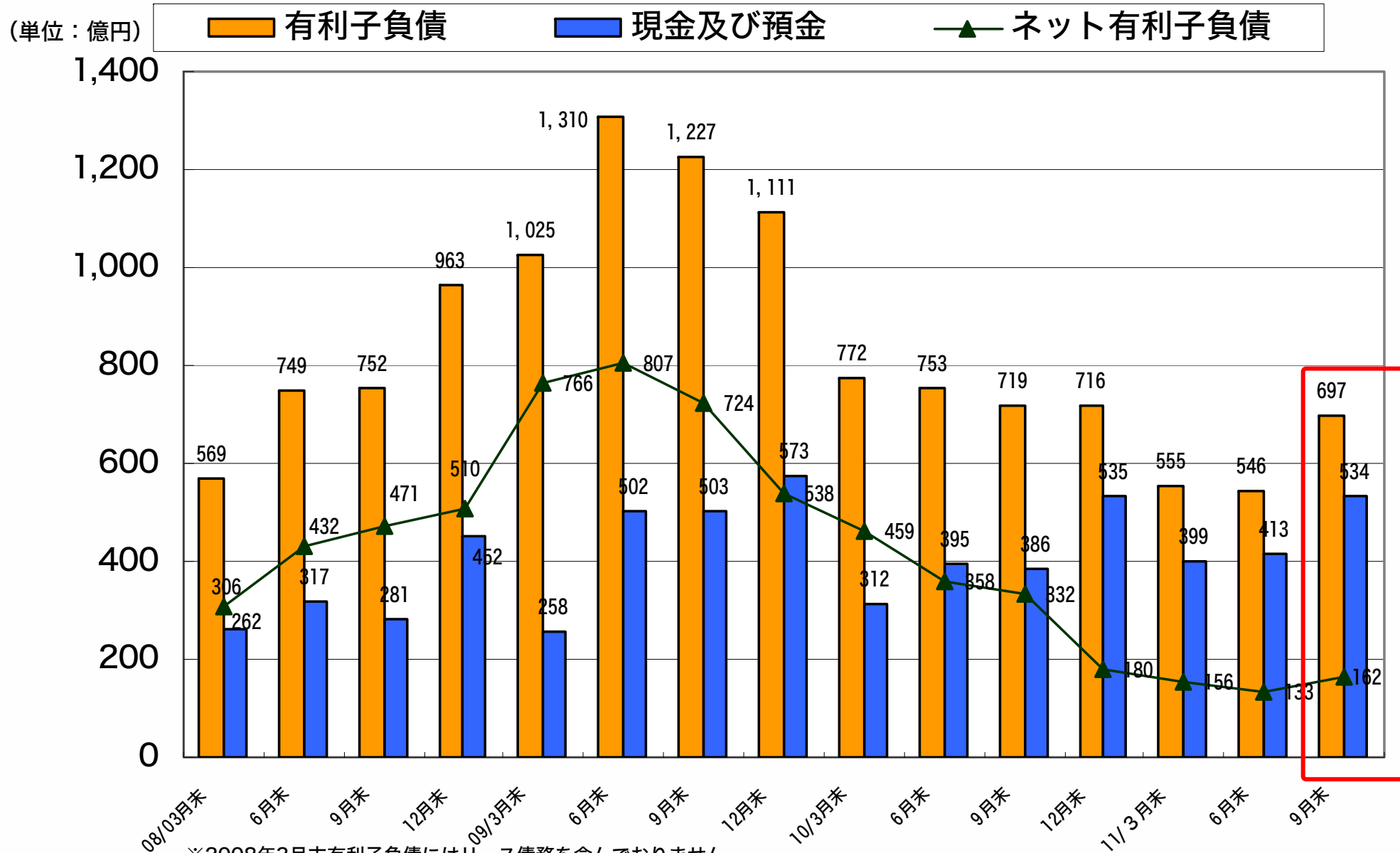
営業CF：28億円
 投資CF：▲7億円
 財務CF：126億円

(単位：億円)



*2011年9月普通社債190億円発行 (借入金返済資金)

有利子負債推移(連結)



※2008年3月末有利子負債にはリース債務を含んでおりません。

事業関連

SE

2Q総括

- 多くの半導体メーカーは設備投資に対して慎重姿勢
 - 第1四半期比、売上・受注ともに減少
- 後半から、ファンドリーにおいては最先端ラインへの投資再開、加速の動き
 - ファンドリーに関しては、第1四半期比、受注が増加に転じる
- 洗浄装置、コーターデベロッパとも主要顧客の投資計画変更により第1四半期比、売上減少
- SU-3200の売上は着実に増加

3Q以降の展望

- ロジック、ファンドリーにおいて微細化投資が牽引し、受注は増加を予想
- NANDメーカーは投資継続するも、DRAMメーカーの量産投資は低調
- 新製品、新技術への研究開発は継続

FE

2Q総括

- ・ 中国でのテレビ用大型基板用装置搬入は予定通り進行
- ・ 新規のテレビ用大型基板向け投資は凍結
- ・ 投資判断の遅れにより、受注は低調に推移

3Q以降の展望

- ・ 4Qまで中国でのテレビ用大型基板用装置搬入継続
- ・ LTPS、OLED商談は継続。ただし、投資額はテレビ用に比べて1件当たり少額
- ・ 収益構造改革計画を策定、10月1日から実施
 - 新規事業分野を分離し、固定費削減
 - 既存事業分野においても、人員を他部門へシフト
 - 既存事業分野で、中国調達拡大、基本設計から見直しなどによりコスト削減の徹底

MP

2Q総括

【MT】

- ・ PODは海外市場を中心に売上伸長
- ・ CTPは新製品効果で国内が堅調
- ・ 収益構造改革計画が奏功、収益改善
- ・ 東京・門前仲町にPODショールームを開設
コンプライトソリューションを提示し、他社との差別化
- ・ 中国（杭州）でのCTP生産工場の増床工事完成

【PE】

- ・ 電子部品の需要鈍化で投資がスローダウン



中国（杭州）増床された工場

3Q以降の展望

【MT】

- ・ PODの堅調は今後も継続
- ・ 海外調達の推進、中国生産へシフト等によりコストダウン
- ・ 欧州においてPOD販売に適した体制を構築

【PE】

- ・ 高精細、高生産性のプリント配線板用直接描画装置「Ledia 5」をリリース

連結業績予想

2012年3月期 連結業績予想

想定為替レート: 1USD=75JPY, 1EUR=105JPY

(単位: 億円)

(単位: 億円)	2012年3月期										2011年 3月期		
	上期		下期				通期				実績		
	実績		8/9予想 (5/10予想)		今回予想		8/9予想		今回予想				
売上高	1,230		1,420		1,260		2,740		2,490		2,549		
SE	844		920		810		1,855		1,654		1,742		
FE	144		255		191		392		335		327		
MP	MT	238	209	241	209	256	222	486	423	495	432	473	404
	PE		28		32		34		63				63
その他(外部売上のみ)	3		4		3		7		6		6		
営業利益	90		135		50		240		140		268		
経常利益	88		130		42		230		130		265		
当期純利益	65		120		34		210		100		256		

*年間配当金予想: 1株当り配当金5円(期末)・・・変更なし

SEは半導体機器事業、FEはFPD機器事業、MPはメディアアンドプレジジョンテクノロジー事業を示す。

中期3力年経営計画
「*NextStage70*」

I. 基本方針

収益構造確立と新たな成長への基盤づくり

1. 安定した収益構造の確立

- 価格競争力の強化
- 高収益製品の強化と顧客価値創出型製品の育成
- 外部環境の変化に応じた事業構造転換力の強化

2. 新たな成長へ

- 新事業の展開へ開発投資を進め、新たな成長を目指す
→ 既存事業のさらなる成長と新規事業の創出
- グローバル化への基盤整備、リスクマネジメントの徹底

II. 数値目標

「自己資本比率 50%以上、純有利子負債ゼロ」 (2014年3月末)

「利益率の向上」および「資本効率の向上」を追求し、『自己資本比率』を高める

	2011/3末	2011/4～2014/3	2014/3末
自己資本比率	34.4%	< 3カ年合計 >	50.0%以上
純有利子負債	156億円	売上高 8,000億円 営業利益 700億円 当期純利益 500億円	0円以下

研究開発 : 470億円
 設備投資 : 350億円
 グループ人員計画 : 最大5,000人*
 (増員は主に海外)

*2011年3月末従業員数 : 4,732人

(ご参考) 過去の中期計画との比較

(単位：億円)	Vision2003 (前々回中期計画)	Vision2008 (前回中期計画)	<i>NextStage70</i> (今回中期計画)
	04/3期~06/3期	07/3期~09/3期	12/3期~14/3期
	実績	実績	計画
売上高	7,078	8,001	8,000
営業利益	534	406	700
営業利益率	7.6%	5.1%	8.8%
当期純利益	345	▲151	500
当期純利益率	4.9%	▲1.9%	6.3%
自己資本比率*	46.8%	28.1%	50.0%以上
純有利子負債*	201	766	0円以下
*各中期計画最終年度末数値			
研究開発費	370	492	470
設備投資額	145	312	350
期末最大従業員数	4,672人 (2006/3末)	5,041人 (2008/3末)	5,000人

新規事業創出の取り組み

- ・10月「エネルギー技術開発推進センター」設立
太陽電池製造機器、リチウムイオン電池関連の開発を加速
- ・プラズマ技術を保有する「(株)イー・エム・ディー」株式取得
- ・ティーチングレスのロボット制御技術開発

リスクマネジメントの取り組み

- ・11月熊本県上益城郡「くまもと臨空テクノパーク」に工場用地取得
取得目的：
 - ・生産拠点の京滋地区集中に対するBCP
 - ・将来に向けた事業拡大のため
- 取得額：16億円
- 面積：11.9ヘクタール
- 利用用途：生產品目等は社内プロジェクトにて検討中

事業関連

<SEセグメント>

- ・市場回復の遅れ、コストダウンの徹底
- ・研究開発を進め、製品差別化

<FEセグメント>

- ・既存事業での収益改善と新規領域の拡大

<MPセグメント>

- ・CTPのコストダウンとPODの売上拡大

経営課題

- ・マクロ経済の先行きが不透明な中、「守り」と「攻め」のメリハリのある経営
- ・新規事業の早期立ち上げ